



HamE Dream !!

~ハメドリ~

ガールズ乱交パーティー!!! Vol.2

基本CG5枚 差分総計240枚+α

サークル：ウメボシ工場

ある日、まりなさんからの誘いで弦巻家所有のプライベートビーチにて遊ぶこととなったC I R C L Eおなじみ5バンドのメンバー25人。

しかしそれはまりなさんの罠であり、彼女達を待ち受けていたのは屈強な竿役達と催眠アプリによる常識改変であった！

まりなさんの目的はバンドメンバー達のやりたい放題されたせいでぶち壊されたC I R C L Eの修繕費をバンドメンバー達の身体で稼がせることだった。まんまと罠にはまった25人はそのままセックス狂いにされてしまい、以降も都合の合うメンバーとビーチに赴いて朝から晩までイキ狂う様に――。

これは、そんな状況になってしまった彼女たちの情事的一幕である！

(※要するに催眠モノとご理解していただければここは読み飛ばして頂いて結構です)

「あはっ、今日もみんな元気いっぱいね♪
でもみんなで笑顔になれる方法にこんなもの
があるなんて知らなかったわ。
教えてくれたまりなに感謝しなくっちゃ♪」

「さあ、遠慮しないでいいわ♪
あたしの身体はみんなの肉オナホなんだから
好きなだけ気持ちよくなって、みんなで楽しく
笑顔になりましょ♪」

「んっ♡はっ♡いいわ、おちん○ん奥まで届いてるっ♡おちん○んハメられてると、幸せな気持ち溢れてくるわねっ♡貴方達も気持ちいいのかしらっ♡」

「あんっ♡ピストンっ♡速くなってっ♡いいわよ、好きなだけあたしの中に貴方のせーえき出してっ♡♡一緒にイキましょっ♡♡♡」

「んあああああああああつ♡♡♡」



「すごいわね貴方のおちん○ん、あたしの
ナカでまだ射精し続けてるわ♡
んー、おマ○コ締めたらもう少しせーえき
出てくるかしら♪」

「さあ、次にあたしのおマ○コ使ってくれるのは
誰かしら？おマ○コ以外も、お尻の穴でも口でも
好きな様に使って♡気持ちよくなってくれたら
あたしもハッピーになれるんだからっ♡」

「あっ♡んあっ♡ひあっ♡これ……すごっ
貴方のおチ○ポっ♡奥まで届いてっ♡
皆さんの興奮がっ、あっ♡伝わってえ♡」

「大丈夫です♡ファンの皆さんの想いつ
ザーメンっ♡あっ♡自分のナカにっ♡
ぶちまけてくださいっ♡♡♡」

「あああああああつつ♡♡♡」



「ひゃっ♡んあっ♡あはっ♡いいよっ♡
下から、あっ♡突かれる度にっ♡奥まで
ゴリゴリ押し広げられちゃってるっ♡」

「あっ♡ナカでっ、おちん○ん膨らんでっ♡
いいよっ、そのまま♡そのまま一番奥でっ
せーえき好きなだけぶちまけてえっ♡♡♡」





「あはあっ♡せーえきたああ♡♡♡」

「んあつ……はあ……♡はっ……♡
すご……みんなこんなに溜めてきて
くれてたんだ♡ナカも外も熱い……♡」

「あははっ、まだ一人目なのに気持ちよくなって
少しはしゃぎすぎちゃったかな……♡
でも大丈夫、ここにいる全員にナカ出しして
貰うまで頑張るからね♡」

んんん…

「ん……くあ……はっ。大きい……
こんな太いペニスが入ってしまうんですね
すいません、こういう事は不慣れなもので
驚いてしまって……」



「大丈夫です。ここでは男性に誘われたら
生ハメセックスをするのがルールですから。
私の身体で良ければ好きに使って下さい」

「ひうっ!? あっ! ひああっ! は、激し……
突かれる度っ、どんどんっ、私の奥っ、
届いてえ……んああっ♡」

「ダメ……っ、このままじゃ……ああっ♡♡
お願いします、ナカに……! 私のおマ○コに
精液っ♡ザーメンぶちまけてください!」

「はーっ♡はっ……あ……♡すごい……
私の中に、こんなに熱い精液が……♡♡
この匂いを嗅ぐと……不思議と気分が
高揚してきますね……♡」



「もっと……もっとザーメン欲しいです……♡
ここでのセックスで、本当の自分が見える
気がするんです……♡だから、精一杯ご奉仕
させていただきますから、ザーメンを下さい♡」

「ん、くっ、あ……結構、太っ……！
え……べ、別に平気だし。これくらい
のチ○ポ全然どうってことないし」

ズブッ

ニョブッ
ニョブッ
ニョブッ

ゴブッ
ゴブッ

「ほら、そんなのどうでもいいから、早く
ひまりにもしたセックスエクササイズっての
やってよ。あたしのマ○コに精液出すだけ
なんでしょ……さっさとお願い」

「ひぐうっ!?んあっ!は……っ!
ちよ……待って激し——んあああっ!
お腹のナカっ、潰れちゃ——っ♡♡」

「嘘っ♡まだピストン早くなって……えっ♡
待ってっ、も……ダメっ♡イカされるっ……!
あっ♡あ、あ、イクっ♡イっちゃ——」

ガッパッ

「ひあああああああつっ♡♡♡」



「はーっ♡はーっ♡♡あ……は……♡
まって……言ったのに……♡あたし
のマ○コ壊す気……？」



「……別に。次も手加減しなくていいよ
だから早く次のチ○ポさっさと突っ込んで。
次こそは……このくらいのチ○ポになんて
絶対イカされないから……♡」

ニッ



んんん

んん...

んんん
んんん
んんん

んんん

んんん...

んんん...









スピン♡

スピン♡

スピン♡

スピン♡

スピン♡

スピン♡





يا ليه

يا ليه يا ليه يا ليه

يا ليه يا ليه يا ليه

يا ليه يا ليه يا ليه

يا ليه يا ليه يا ليه يا ليه











♡...♡

♡♡♡

♡...♡

♡...♡

♡...♡









♡...ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...





あー
あー

あー

あー

あー

あー

あー

あー
あー

あー
あー

あー
あー



ははは

ははは

ははは

ははは

ははは



あ...♡

あ...♡

は♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡












































「あはっ、今日もみんな元気いっぱいね♪
でもみんなで笑顔になれる方法にこんなもの
があるなんて知らなかったわ。
教えてくれたまりなに感謝しなくっちゃ♪」

「さあ、遠慮しないでいいわ♪
あたしの身体はみんなの肉オナホなんだから
好きなだけ気持ちよくなって、みんなで楽しく
笑顔になりましょ♪」

「んっ♡はっ♡いいわ、おちん○ん奥まで届いてるっ♡おちん○んハメられてると、幸せな気持ち溢れてくるわねっ♡貴方達も気持ちいいのかしらっ♡」

「あんっ♡ピストンっ♡速くなってっ♡いいわよ、好きなだけあたしの中に貴方のせーえき出してっ♡♡一緒にイキましょっ♡♡♡」

「んあああああああああつ♡♡♡」



「すごいわね貴方のおちん○ん、あたしの
ナカでまだ射精し続けてるわ♡
んー、おマ○コ締めたらもう少しせーえき
出てくるかしら♪」

「さあ、次にあたしのおマ○コ使ってくれるのは
誰かしら？おマ○コ以外も、お尻の穴でも口でも
好きな様に使って♡気持ちよくなってくれたら
あたしもハッピーになれるんだからっ♡」

♡♡♡...

「あっ♡んあっ♡ひあっ♡これ……すごっ
貴方のおチ○ポっ♡奥まで届いてっ♡
皆さんの興奮がっ、あっ♡伝わってえ♡」

「大丈夫です♡ファンの皆さんの想いつ
ザーメンっ♡あっ♡自分のナカにっ♡
ぶちまけてくださいっ♡♡♡」

「あああああああつつ♡♡♡」



「はあ……はあ……あ……は♡♡♡
皆さんの想いが、ジブンのナカに……
熱くて、気持ちいいです……フヘヘ♪」



「もっと……皆さんと交流したいです♡
自分のおマ○コ、皆さんのザーメンで
いっぱいにしてください……♡」

「あははっ。みんなガチガチだねー♪
弟たちよく風呂に入れるからおちん○ん
見慣れてるつもりだったけど、やっぱり
大人のは全然違うなー♡」

「それじゃ、待たせても悪いし始めよっか♪
これでもパン屋で鍛えられてるし体力は
自信あるから。だからみんな遠慮しないで
好きなだけオマ○コ使ってね♪」

「ひゃっ♡んあっ♡あはっ♡いいよっ♡
下から、あっ♡突かれる度にっ♡奥まで
ゴリゴリ押し広げられちゃってるっ♡」

「あっ♡ナカでっ、おちん○ん膨らんでっ♡
いいよっ、そのまま♡そのまま一番奥でっ
せーえき好きなだけぶちまけてえっ♡♡♡」



「あはあっ♡せーえききたああ♡♡♡」

「んあつ……はあ……♡はっ……♡
すご……みんなこんなに溜めてきて
くれてたんだ♡ナカも外も熱い……♡」

「あははっ、まだ一人目なのに気持ちよくなって
少しはしゃぎすぎちゃったかな……♡
でも大丈夫、ここにいる全員にナカ出しして
貰うまで頑張るからね♡」

んんん…

「ん……くあ……はっ。大きい……
こんな太いペニスが入ってしまうんですね
すいません、こういう事は不慣れなもので
驚いてしまって……」



「大丈夫です。ここでは男性に誘われたら
生ハメセックスをするのがルールですから。
私の身体で良ければ好きに使って下さい」

「ひうっ!? あっ! ひああっ! は、激し……
突かれる度っ、どんどんっ、私の奥っ、
届いてえ……んああっ♡」

「ダメ……っ、このままじゃ……ああっ♡♡
お願いします、ナカに……! 私のおマ○コに
精液っ♡ザーメンぶちまけてください!」

「はーっ♡はっ……あ……♡すごい……
私の中に、こんなに熱い精液が……♡♡
この匂いを嗅ぐと……不思議と気分が
高揚してきますね……♡」



「もっと……もっとザーメン欲しいです……♡
ここでのセックスで、本当の自分が見える
気がするんです……♡だから、精一杯ご奉仕
させていただきますから、ザーメンを下さい♡」

「ん、くっ、あ……結構、太っ……！
え……べ、別に平気だし。これくらい
のチ○ポ全然どうってことないし」

ズブッ

ニョブッ♡

ゴブッ

「ほら、そんなのどうでもいいから、早く
ひまりにもしたセックスエクササイズっての
やってよ。あたしのマ○コに精液出すだけ
なんでしょ……さっさとお願い」

「ひぐっ!?んあっ!は……っ!
ちよ……待って激し——んあああっ!
お腹のナカっ、潰れちゃ——っ♡♡」

「嘘っ♡まだピストン早くなって……えっ♡
待ってっ、も……ダメっ♡イカされるっ……!
あっ♡あ、あ、イクっ♡イっちゃ——」

「ひあああああああつっ♡♡♡」





んんん...

んん...

んんん
んんん
んんん

んんん...

んんん...

んんん...









スピン

ニギン

ニギン

アハハ

ニギン

さ

ん















אני...

אהבה...

אהבה...

אהבה...







يااااا

يااااا

يااااا

يااااا

يااااا

يااااا

يااااا



♡...ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...

ア...ア...















































「あはっ、今日もみんな元気いっぱいね♪
でもみんなで笑顔になれる方法にこんなもの
があるなんて知らなかったわ。
教えてくれたまりなに感謝しなくっちゃ♪」

「さあ、遠慮しないでいいわ♪
あたしの身体はみんなの肉オナホなんだから
好きなだけ気持ちよくなって、みんなで楽しく
笑顔になりましょ♪」

「んっ♡はっ♡いいわ、おちん○ん奥まで
届いてるっ♡おちん○んハメられてると、
幸せな気持ち溢れてくるわねっ♡
貴方達も気持ちいいのかしらっ♡」

「あんっ♡ピストンっ♡速くなってっ♡
いいわよ、好きなだけあたしの中に貴方の
せーえき出してっ♡♡一緒にイキましょっ♡♡♡」

「んあああああああああつ♡♡♡」



「すごいわね貴方のおちん○ん、あたしの
ナカでまだ射精し続けてるわ♡
んー、おマ○コ締めたらもう少しせーえき
出てくるかしら♪」

「さあ、次にあたしのおマ○コ使ってくれるのは
誰かしら？おマ○コ以外も、お尻の穴でも口でも
好きな様に使って♡気持ちよくなってくれたら
あたしもハッピーになれるんだからっ♡」

ピク...

「あっ♡んあっ♡ひあっ♡これ……すごっ
貴方のおチ○ポっ♡奥まで届いてっ♡
皆さんの興奮がっ、あっ♡伝わってえ♡」

「大丈夫です♡ファンの皆さんの想いつ
ザーメンっ♡あっ♡自分のナカにっ♡
ぶちまけてくださいっ♡♡♡」

「あああああああつつ♡♡♡」



アナル

アナル

アナル♡

アナル

アナル

アナル

アナル

「はあ……はあ……あ……は♡♡♡
皆さんの想いが、ジブンのナカに……
熱くて、気持ちいいです……フヘヘ♪」



「もっと……皆さんと交流したいです♡
自分のおマ○コ、皆さんのザーメンで
いっぱいにしてください……♡」

「あははっ。みんなガチガチだねー♪
弟たちよく風呂に入れるからおちん○ん
見慣れてるつもりだったけど、やっぱり
大人のは全然違うなー♡」

「それじゃ、待たせても悪いし始めよっか♪
これでもパン屋で鍛えられてるし体力は
自信あるから。だからみんな遠慮しないで
好きなだけオマ○コ使ってね♪」

「ひゃっ♡んあっ♡あはっ♡いいよっ♡
下から、あっ♡突かれる度にっ♡奥まで
ゴリゴリ押し広げられちゃってるっ♡」

「あっ♡ナカでっ、おちん○ん膨らんでっ♡
いいよっ、そのまま♡そのまま一番奥でっ
せーえき好きなだけぶちまけてえっ♡♡♡」





「あはあっ♡せーえきたああ♡♡♡」

「んあつ……はあ……♡はっ……♡
すご……みんなこんなに溜めてきて
くれてたんだ♡ナカも外も熱い……♡」

「あははっ、まだ一人目なのに気持ちよくなって
少しはしゃぎすぎちゃったかな……♡
でも大丈夫、ここにいる全員にナカ出しして
貰うまで頑張るからね♡」

んんん…

「ん……くあ……はっ。大きい……
こんな太いペニスが入ってしまうんですね
すいません、こういう事は不慣れなもので
驚いてしまって……」



「大丈夫です。ここでは男性に誘われたら
生ハメセックスをするのがルールですから。
私の身体で良ければ好きに使って下さい」

「ひうっ!? あっ! ひああっ! は、激し……
突かれる度っ、どんどんっ、私の奥っ、
届いてえ……んああっ♡」

「ダメ……っ、このままじゃ……ああっ♡♡
お願いします、ナカに……! 私のおマ○コに
精液っ♡ザーメンぶちまけてください!」

「はーっ♡はっ……あ……♡すごい……
私の中に、こんなに熱い精液が……♡♡
この匂いを嗅ぐと……不思議と気分が
高揚してきますね……♡」



「もっと……もっとザーメン欲しいです……♡
ここでのセックスで、本当の自分が見える
気がするんです……♡だから、精一杯ご奉仕
させていただきますから、ザーメンを下さい♡」

「ん、くっ、あ……結構、太っ……！
え……べ、別に平気だし。これくらい
の手○ポ全然どうってことないし」

ズブッ

ニョブッ♡

ゴブッ

「ほら、そんなのどうでもいいから、早く
ひまりにもしたセックスエクササイズっての
やってよ。あたしのマ○コに精液出すだけ
なんでしょ……さっさとお願い」

「ひぐっ!?んあっ!は……っ!
ちょ……待って激し——んあああっ!
お腹のナカっ、潰れちゃ——っ♡♡」

「嘘っ♡まだピストン早くなって……えっ♡
待ってっ、も……ダメっ♡イカされるっ……!
あっ♡あ、あ、イクっ♡イっちゃ——」

ガッパッ

「ひあああああああつっ♡♡♡」



ひん

ひん

ひん

ひん

ひん

ひん

「はーっ♡はーっ♡♡あ……は……♡
まって……言ったのに……♡あたし
のマ○コ壊す気……？」

「……別に。次も手加減しなくていいよ
だから早く次のチ○ポさっさと突っ込んで。
次こそは……このくらいのチ○ポになんて
絶対イカされないから……♡」













スピン♡

スピン♡

スピン♡

スピン♡

スピン♡

スピン♡









おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

お尻















♡...アッ

う...アッ

B...アッ

B...アッ

アッ！
う...アッ

アッ

アッ

アッ





あー
あー

あー

あー

あー

あー

あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー
あー

あー
あー
あー
あー





あ...♡

あ...♡

は♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡









































「あはっ、今日もみんな元気いっぱいね♪
でもみんなで笑顔になれる方法にこんなもの
があるなんて知らなかったわ。
教えてくれたまりなに感謝しなくっちゃ♪」

「さあ、遠慮しないでいいわ♪
あたしの身体はみんなの肉オナホなんだから
好きなだけ気持ちよくなって、みんなで楽しく
笑顔になりましょ♪」

「んっ♡はっ♡いいわ、おちん○ん奥まで届いてるっ♡おちん○んハメられてると、幸せな気持ち溢れてくるわねっ♡貴方達も気持ちいいのかしらっ♡」

「あんっ♡ピストンっ♡速くなってっ♡いいわよ、好きなだけあたしの中に貴方のせーえき出してっ♡♡一緒にイキましょっ♡♡♡」

「んあああああああつ♡♡♡」



「すごいわね貴方のおちん○ん、あたしの
ナカでまだ射精し続けてるわ♡
んー、おマ○コ締めたらもう少しせーえき
出てくるかしら♪」

「さあ、次にあたしのおマ○コ使ってくれるのは
誰かしら？おマ○コ以外も、お尻の穴でも口でも
好きな様に使って♡気持ちよくなってくれたら
あたしもハッピーになれるんだからっ♡」

「あっ♡んあっ♡ひあっ♡これ……すごっ
貴方のおチ○ポっ♡奥まで届いてっ♡
皆さんの興奮がっ、あっ♡伝わってえ♡」

「大丈夫です♡ファンの皆さんの想いつ
ザーメンっ♡あっ♡自分のナカにっ♡
ぶちまけてくださいっ♡♡♡」


「あああああああつつ♡♡♡」



「はあ……はあ……あ……は♡♡♡
皆さんの想いが、ジブンのナカに……
熱くて、気持ちいいです……フヘヘ♪」



「もっと……皆さんと交流したいです♡
自分のおマ○コ、皆さんのザーメンで
いっぱいにしてください……♡」



「あははっ。みんなガチガチだねー♪
弟たちよく風呂に入れるからおちん○ん
見慣れてるつもりだったけど、やっぱり
大人のは全然違うなー♡」

「それじゃ、待たせても悪いし始めよっか♪
これでもパン屋で鍛えられてるし体力は
自信あるから。だからみんな遠慮しないで
好きなだけオマ○コ使ってね♪」

「ひゃっ♡んあっ♡あはっ♡いいよっ♡
下から、あっ♡突かれる度にっ♡奥まで
ゴリゴリ押し広げられちゃってるっ♡」

「あっ♡ナカでっ、おちん○ん膨らんでっ♡
いいよっ、そのまま♡そのまま一番奥でっ
せーえき好きなだけぶちまけてえっ♡♡♡」



「あはあっ♡せーえききたああ♡♡♡」

「んあつ……はあ……♡はっ……♡
すご……みんなこんなに溜めてきて
くれてたんだ♡ナカも外も熱い……♡」

「あははっ、まだ一人目なのに気持ちよくなって
少しはしゃぎすぎちゃったかな……♡
でも大丈夫、ここにいる全員にナカ出しして
貰うまで頑張るからね♡」

んんん…

「ん……くあ……はっ。大きい……
こんな太いペニスが入ってしまうんですね
すいません、こういう事は不慣れなもので
驚いてしまって……」



「大丈夫です。ここでは男性に誘われたら
生ハメセックスをするのがルールですから。
私の身体で良ければ好きに使って下さい」

「ひうっ!? あっ! ひああっ! は、激し……
突かれる度っ、どんどんっ、私の奥っ、
届いてえ……んああっ♡」

「ダメ……っ、このままじゃ……ああっ♡♡
お願いします、ナカに……! 私のおマ○コに
精液っ♡ザーメンぶちまけてください!」

「ん、くっ、あ……結構、太っ……！
え……べ、別に平気だし。これくらい
のチ○ポ全然どうってことないし」

ズブッ

ニョブッ
ニョブッ
ニョブッ

ゴブッ
ゴブッ

「ほら、そんなのどうでもいいから、早く
ひまりにもしたセックスエクササイズっての
やってよ。あたしのマ○コに精液出すだけ
なんでしょ……さっさとお願い」

「ひぐっ!?んあっ!は……っ!
ちよ……待って激し——んあああっ!
お腹のナカっ、潰れちゃ——っ♡♡」



「嘘っ♡まだピストン早くなって……えっ♡
待ってっ、も……ダメっ♡イカされるっ……!
あっ♡あ、あ、イクっ♡イっちゃ——」

ガッパッ

「ひあああああああつっ♡♡♡」





んんん

んんん

んんん

んんん
んんん
んんん

んんん...

んんん...































♡...アッ

アッ...♡

アッ...♡

アッ...♡

アッ...♡

アッ...♡

アッ...♡

アッ...♡





あー
あー

あー

あー

あー

あー

あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー





あ...♡

あ...♡

は♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡











































































もー……水着見たいって
言ったから着てきたの……
結局工ツチしたかっただけ
じゃないの？

明日香澄たちと海行くのに、
これ着たら〇〇さんとエツチした
こと思い出しちゃうよ……バカした
♥



